

# 地域円卓会議フォーラム2014」

地域円卓会議in茨城の経過について

茨城NPOセンター・コモンズ 横田能洋

<http://www.npocommons.org>

「SR:社会的責任」で問われていること

法令順守だけでは、社会の持続性が危うい

「私・わが組織には関係ない」と決めつけないこと

事業体は、社会面・環境面の配慮を業務に統合すること

利益を還元すること < どのように利益をあげるか

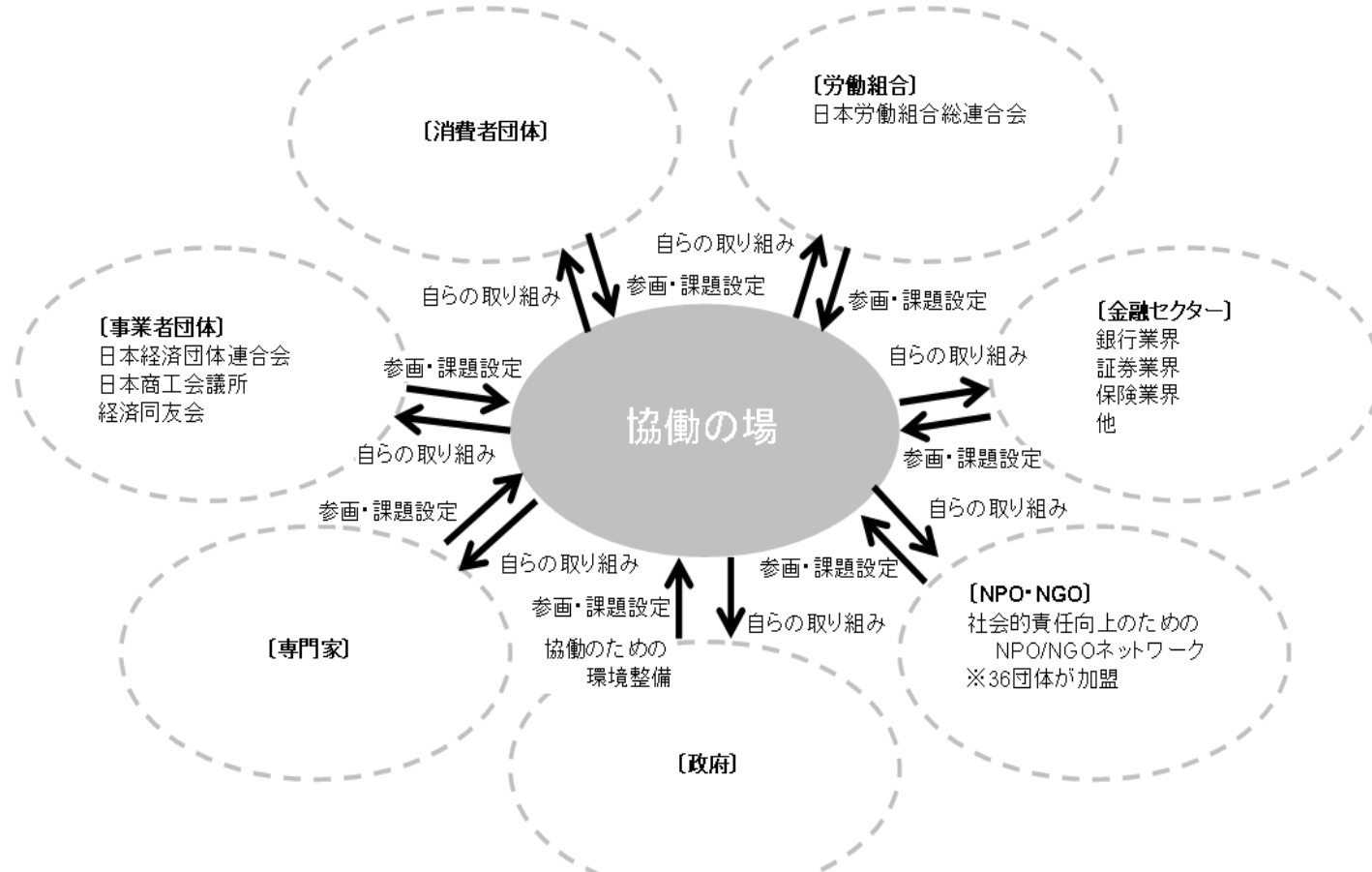
SRとは 社会を学ぶこと、社会への洞察力が重要

- 法や制度面での義務はないが、ステークホルダーと自組織の間で起きている社会課題について、このままでよいかを考え、判断し、実行するプロセス。
- その判断に際してステークホルダーと対話したり、協働することが重要になる



# 社会的責任に関する円卓会議

安全・安心で持続可能な未来に向け、事業者団体、労働組合、NPO・NGOなどの広範な主体が参画し、政府だけでは解決の難しい課題に対し、参加主体が自ら行動することで解決していく枠組み。平成21年3月、政府、事業者団体、労働組合、NPO等、消費者団体、学者等の発起人の署名により設立以降、政府はメンバーの一員として参画



# 地域円卓会議開催までの経過

22年9月 **SR円卓会議**で、22年度モデル事業として**地域版円卓会議**の実施が決まり、**茨城**が開催候補地に選ばれた。

選ばれた理由

各セクターの協働でNPOフォーラムを10年以上開催し、その中から「**地域のパートナーシップを拓くSRネット茨城**」ができていた。

そこで、毎年開催してきたNPOフォーラムは、22年度は**地域円卓会議in茨城**として開催することになり、SRネット茨城が円卓会議の実行委員会になった。

# 地域のパートナーシップを拓く SRネット茨城の目的

- 企業・労組・経済団体・NPOの関係者が集い
- 組織の社会的責任や地域貢献に関する情報を交換できる場を設け
- それぞれの活動のレベルアップを図り
- 地域の課題解決に向けた相互の連携と活動の発展を促し、
- 組織や地域の価値を高める。

# 地域での円卓的協働の仕掛け方

立ち上げ方は2パターン

パターン1 事業テーマ(地域課題)があり、それにかかわりそうなキーパーソンに集まってもらう  
(現状共有はしやすいが、協働につなげるには新たな事業の企画力がある)

パターン2 多様なメンバーに集まってもらい、そのメンバーで協働できる事業を考え、組み立てる

(関心が重なるテーマを選び、各組織の特性が生きる今までにない事業を作りこみ、さらにメンバーを仲間にし、本気にさせる仕掛け人(グループ)がいる)

# 議論の枠組みづくりの選択

組織やセクターを代表した討議とするかどうか

## 組織を代表して討議 (形式や実効性を重視)

### メリット

- ・組織の意見を公に示し、組織間合意することで、実行性は高まる。
- ・ルールをつくる上では効果的を

### デメリット

- ・代表を担える協議者を選ぶことや、他の協議者とバランスをとるのが大変
- ・意思決定に時間と手間がかかる
- ・発言が慎重になりやすい
- ・総論賛成でも各論慎重になりやすい

## 代表性にこだわらない (自由な発想を重視)

### メリット

- ・協議者の人選がしやすい
- ・関心がある人が集うことにより、主体的で具体的な討議がしやすい
- ・自由な発想から新たな協働アイデアが生まれる可能性がある

### デメリット

- ・個人的コメントにとどまりやすい
- ・やや偏った意見になりやすい
- ・組織的实践になりにくい

# 議論の枠組みづくりのプロセス

協議テーマについて協議し3つに決定

- ・生協が提案した「農業の支援と新たな仕事づくり」
- ・NPOが提案した「新しい公共を広げるための地域資源循環」
- ・商工会議所が議論してきた「買い物支援や外出支援」

それぞれに関係しそうな組織や活動事例のリストアップを行い、実行委員会  
が推薦した人や組織に協議者就任を依頼

議論のストーリーや落としどころをどうするか・・・

**「議論がどこにいくか不安だが、様々な立場、実践が融合する  
中で想定外の化学反応が生まれるプロセスが円卓の醍醐味」**  
との意見に実行委員が賛同。プレ会議を2回行って、議論の下地をつくることに。



# 地域の課題解決に向けたアイデアをみんなで味わおう!

## 地域円卓会議in茨城2011

円卓会議とは、多様な立場の人が、茨城の地域課題解決を目指してアイデアを持ち寄り、ともに味わおうという、鍋や食卓のようなイメージの会議です。中央で過去数年間にわたっている『社会的責任に関する円卓会議』の地域版として、全国で初めて茨城が選ばれました。地域を構成する多様な組織(企業、経済団体、労働組合、消費者団体、非営利団体、行政など)の関係者が、地域課題について、どう協働し解決につなげるかを協議する場です。今回のテーマは、①茨城の農業の支援と新たな仕事づくり②「新しい公共」を広げるための地域資源循環の仕組みづくり③交通弱者の外出・買い物支援、の3つとなります。「地域課題の解決」をみんなで一緒に味わいませんか。



参観者  
募集中!

平成23年**2月18日(金)** 13:00~16:30(12:30開場)

**会場** 茨城県立青少年会館 水戸市緑町1丁目1-18

**対象** 分科会の3つのテーマのいずれかに関心のある方、もしくは円卓会議の仕組みに興味のある方

**参加費** ●●●円(資料代含む。当日受付にて現金で頂戴します)

**定員** 100名(先着順)

**申込方法** 裏面をご覧ください。



### プログラム

13:00~ 開会あいさつ・来賓あいさつ

来賓講演

テーマ「新しい公共と円卓会議の意義」

講師:田和 宏氏

内閣府政策統括官(経済社会システム担当)付参事官

13:40~ 分科会(詳細は裏面参照)

《テーマ1》  
『茨城の農業の支援と新たな仕事づくり』

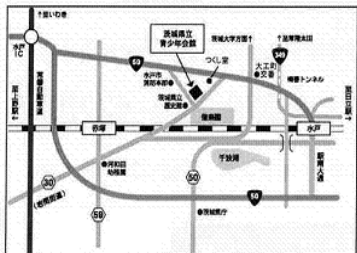
《テーマ2》  
『「新しい公共」を広げるための地域資源循環の仕組みづくり』

《テーマ3》  
『交通弱者の外出支援・買い物支援』

15:40~ 休憩

16:00~ 全体会

16:30 閉会(予定)



【お車でお越しの場合】  
●無料駐車場がございますが、数に限りがございます。  
●水戸IC(空閑方面)からお越しの場合は、国道50号線を水戸駅方面に向かって「備菜園北口」交差点を右折してください。  
●水戸駅方面からお越しの場合は、国道50号線を空閑方面に向かって「大工町2丁目」交差点を左折してください。

【電車をご利用の場合】 近常磐線「水戸駅」下車後北口より、  
●茨城オートバス乗車「歴史館検校園入口」下車徒歩1分  
●茨城交通バス「備菜園行」乗車「青少年会館前」下車

**お問い合わせ** 認定NPO法人 茨城NPOセンター・commons 電話:029-300-4321

主催:地域円卓会議in茨城2011実行委員会

実行委員会参画組織:茨城県、水戸市、水戸商工会議所、社団法人 茨城県経営者協会、日本労働組合連合会

茨城県連合会(連合茨城)、生活協同組合 バルシステム茨城、茨城新聞社、認定NPO法人 茨城NPOセンター・commons

協力:社会的責任に関する円卓会議

### 分科会での協議テーマ

#### 《テーマ1》 『茨城の農業の支援と新たな仕事づくり』

農業従事者の高齢化と後継者不足、耕作放棄地の拡大などは、農業県茨城にとって大きな課題。この分科会では、農業の新たな担い手づくり、地域の連携で農業の収益力を高める、生産者と消費者の連携について、各セクターが協力できることを話し合います。

議論の柱  
・人や後継者を求める農家と、農に関心を持つ人をつなぐ仕組みの検討  
・ネットワークを生かした地産地消や、農の第6次産業化を進める方策  
・農の魅力や、収益性を高める方策

#### 《テーマ2》 『「新しい公共」を広げるための地域資源循環の仕組みづくり』

地域を支えるNPOやコミュニティ組織の活動を発展させるため、地域の潜在的な活動資源である場所、施設、人材、モノ、資産を発掘し、その活用方法を検討します。そして、既に具体化したフードバンクに続く新たな仲介の仕組みを検討、具体化します。

議論の柱  
・企業人の専門ノウハウをNPOに提供する“プロボノ”の仲介の仕組み  
・空きスペース、遊休施設を地域団体に提供しやすくする方策  
・寄付者を支援するための寄付市場と市民ファンドと各組織の連携

#### 《テーマ3》 『交通弱者の外出支援・買い物支援』

高齢化が進み、中心市街地では食の砂漠化(町に八百屋がない)、高齢者のひきこもり傾向が課題となり、車を運転しない人も増えていきます。誰もが安心して外出し、まちにかかわれる仕組みづくりを地域の連携でどのようにつくれるかを考えます。

議論の柱  
・NPO等の福祉移動サービスと公共交通の連携による移動困難者の外出支援  
・商店街と各団体の連携による高齢者の買い物支援  
・低床バス普及と公共交通利用促進のための共同キャンペーン

### 申込み方法

参観をご希望の方は、氏名、所属、郵便番号、住所、連絡先、希望する分科会を記入し、下記宛にハガキまたはメールでお申し込みいただくか、下記の申込書を使用しFAXでお申し込みください。

ハガキ  
宛先

〒310-0022 水戸市梅香2-1-39 茨城県労働福祉会館2階

認定NPO法人 茨城NPOセンター・commons「地域円卓会議in茨城2011 実行委員会事務局」行

EX-メール

info@npocommons.org

FAX 029-300-4320

**お問い合わせ** 認定NPO法人 茨城NPOセンター・commons 電話:029-300-4321

### 地域円卓会議 in 茨城 FAXお申し込み用紙

ご所属			
フリガナ	役 職		
ご氏名			
ご住所	〒 (自宅・所属団体・勤務先)		
連絡先	電 話	FAX	eメール
参加分科会 (いずれかに○)	テーマ1:『茨城の農業の支援と新たな仕事づくり』	テーマ2:『「新しい公共」を広げるための地域資源循環の仕組みづくり』	テーマ3:『交通弱者の外出支援・買い物支援』



もうひとつのねらい

- ・既存の議論の枠を超えて議論をし、  
熱くなる人を生み出す。

それぞれが当事者になる。

自発的に、皆で話し合ったことを  
具体化させるべく動き、産みの苦し  
みと達成感を共に味わうことで、  
困ったときに相談ができる関係性  
(仲間)をつくる。



地域の課題解決に向けたアイデアをみんなで味わおう！

# 地域円卓会議 in 茨城 2011

主催：『地域円卓会議 in 茨城 2011』実行委員会 協力：社会的責任に関する円卓会議

# 震災支援時のコラボレーション

- 北茨城といわきのNPO 現地情報の提供  
支援先との調整
- 労働者福祉基金協会 活動拠点の提供
- パルシステム茨城 物資倉庫 の提供
- 茨城県生協連合会 炊き出し
- つくば市民大学 物資収集時の拠点
- 経営者協会・連合茨城 支援物資の呼かけ
- 茨城新聞・茨城放送 支援活動の紹介
- 社会福祉協議会 バス貸与 広報協力
- バス会社 ボランティアバス運行

# 外出・買い物支援における協働

生協等が出前  
販売車で巡回

企業が、駐車場な  
どの場所を提供

ボランティアが、  
生活ニーズを  
ききとり

自治会が住民に  
案内

サービスの充実で採算維持

# バスが利用しづらく 街歩きがしにくい街は ますます人が寄り付かない街になる

## 行政

公共交通の利用  
促進や地域のバリア  
フリー化を進めたい

## 特別支援学校

生徒の作品の展示・販売の  
拠点を街中におきたい

## バス会社

移動困難者に低床バ  
スを利用してほしい

祭りの際に、  
外出の機会を  
つくろう

## 高校生

何かボランティアしたい

## 大学

バリアフリーの研究  
で協力したい

## 商工会議所

バリアフリーマップを  
集客につなげたい

## 飲食店

改装したトイレを利  
用してもらいたい

# タウンモビリティ





# 廃食油リサイクルと農家支援

ボランティア  
PTAが油回収

学校・行政が  
回収に協力

企業が油を買い取り  
燃料化

油の代金が  
地域活動資金に

農家・自治体に安い  
ボイラー燃料を提供

# NPOへの寄付を仲介する仕組み

寄付  
を求  
める  
NPO

活動計画⇒

←寄付

活動報告⇒

市  
民  
フ  
ア  
ン  
ド

寄付先の  
カタログ⇒

←選んで寄付

活動報告＋  
税制優遇⇒

社会  
貢献  
したい  
市民  
企業

市民が安心して寄付ができ、寄付市場がNPOを育てる

# 協働に至るまでの壁

- 課題の関係者が互いの考えや取組みを知る  
(関心をもってもらえず場にこない)
- その課題の当事者であることの確認  
(他がやることと捉え自らは動こうとしない)
- 共にテーブルについて協議することの確認  
(ゴール、位置づけに納得せず席につかない)
- 何らかの取組みで協力することの確認  
(自組織内部で方針がつかれないので保留)
- 具体的に何をし、同役割分担するか決める  
(人や労力など負担できない)

# 円卓会議の発展

## ① 新しい公共フォーラム

ねらい 異業種の対話を体感し、各組織で円卓方式を導入してもらう

内容 50～60人が5, 6人のグループごとに、協働できそうなことを議論  
新しい公共支援事業の一環でH23,24年度に計4回実施

## ② 定住外国人との共生に関する連続円卓フォーラム

ねらい ひとつのテーマについて多角的に課題設定し、課題に関わる組織、専門家、当事者が現状を共有し具体的な対応策や連携可能性を探る。書籍化を通じて現状を地域に発信。

内容 県内の日系ブラジル人の就労、起業、子どもの教育、福祉に関する連続型の円卓会議 H24年度に実施

## ③ フューチャーセンターセッション

H25年度から月1回ペースで試行中

ねらい 討議者を限定しない、アイデア出しで終わらせない、みなで未来(例えば場の活用、仕事づくり)を具現化する営み

## フューチャーセンターセッション

- ・多様な人が、できること、協力してほしいことを看板に書いて交流。
- ・話したい人同士でグループをつくりなんらかの活動をするための議論（ミニ円卓会議を一斉に開催）
- ・出てきたアイデアを共有し、具体化に向けた継続した検討を行う



# コーディネーターの養成

## 対象

- 市民が集い多様な学びを行う場やネットワークをつくることに関心のある人
- (環境やまちづくり、多文化共生に関する実践者、大学、市役所、社会教育施設で学習プログラムをつくったり地域連をすすめている人、企業CSR担当職員、障害者などの当事者団体、商店街関係者、プランナー、大学生など)

## 研修テーマ

- 場に関わる人を探して声かけやりたいことや課題をきく。
- 地域で活動している人のやりたいことをミックスして  
共同の事業を組み、場に人を募る
- 地域の資源や課題に気づき、発想やつながりを広げる
- 場を共有しながら違いを超えて協力できることを企画する
- 市民が共同で運営する空間をデザインする
- 場や事業の運営経費を賄う方法を考え具体化する

# コーディネーターとしての心得

- キーパーソンとの出会いを大事にする。
- 何か試みてる相談者の役に立ち、つながっておく
- メンバーのいい組み合わせをつくり、まきこむ
- 閃いたら、成功体験を味わえそうな事業をデザイン
- メンバー同士の交流を促す
- 協力者を誘い込み、輪を広げる
- 不安や壁を乗り越えることは、仲間としての一体感を増すチャンス(ここが頑張りどころ)
- メンバーのアイデアをできるだけ活かす。
- 火を消さないよう次の展開を考え場をつくる。

# 討議によって市民社会を広げよう

	参加	関係	可変性	創造性
<b>市民社会</b> <b>COMMONS</b> 貢献活動 ファインプレー	<ul style="list-style-type: none"><li>・自らを開き、力を持ち寄る</li><li>・自らの利害を越えられる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・仲間関係</li><li>・お互いさま</li><li>・対等な関係</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・自発的に活動</li><li>・役割は変わる</li><li>・不安定</li></ul>	様々な人が自由な対話で新しいアイデアを生み出せる。
<b>組織社会</b> 本業活動 やって当たり前	<ul style="list-style-type: none"><li>・組織を守る、閉じた関係</li><li>・組織の利害や責任を重視</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・契約関係</li><li>・取引関係</li><li>・上下関係</li><li>・競争関係</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・自由は制限</li><li>・役割は固定的</li><li>・安定性は高い</li></ul>	メンバーが固定化しやすく新しいアイデアが出にくい。
<b>国</b> 義務活動 必ず行う	<ul style="list-style-type: none"><li>・国益を重視</li></ul>	権利と義務の関係	法に従わなければならない	決定権を持つ人が決まっている